



～温室効果ガスの排出量削減に向けて～ コークスと木質バイオマスチップとの ハイブリット資材を用いた溶融処理の開始について

亀山市では、総合環境センターの溶融施設において、コークスと木質バイオマスチップとのハイブリット（混焼）資材を用いた廃棄物処理を、昨年度からの実用試験や検討を踏まえ、今月、本格的に開始しました。

本市の廃棄物処理は、シャフト炉式ガス化溶融炉を採用し、家庭系ごみや過去に最終処分場に埋め立てられたごみなど、多様なごみを処理しています。

ガス化溶融炉の運転では、ごみをより高い温度で溶けやすくするための資材としてコークスを使用していますが、一昨年来のエネルギー価格高騰によりその価格が高騰しており、維持管理経費が増加しています。

このような中、本市としましては、経費削減を図るとともに脱炭素社会の実現に向け、昨年11月、コークスの割合を減らし、安価で、かつ、カーボンフリーの木質バイオマスチップを一部使用した試験を行いました。

試験の結果、燃焼室の温度を一定に保つことができ、操業に影響がないことを確認できたことから、その後導入に向けた準備を進め、今月4日から1号炉において本格的な実施に至ったところです。

4日の開始以降、安定的な廃棄物処理が確認できているところであり、今後、更なる燃焼効率の向上、温室効果ガスの排出量削減に向けて研究を重ね、脱炭素社会の実現を目指してまいります。